

令和6年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第1回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2024年5月12日（日）10:00～15:00

参加者：14名

（学部生：5名、教職大学院生：4名、外部関係者：1名、児童：2名 教職員：杉山、阪本）

■実施場所：春日山原始林

■第1回 春日山原始林の自然と課題（春日山遊歩道北部～若草山）

2024年5月12日（土）10:00～15:00

概要：春日大社から春日山遊歩道～若草山までを歩き、特徴的な自然環境と課題について学び・体験する。

10:00 春日大社国宝殿前集合

10:30 挨拶・体操

11:00 春日山遊歩道（北部）を歩きながら解説

12:00 五感の体操・みみをすます

12:20 森でねころぶ

12:30 昼食・ループで周辺の観察

13:00 解説しながら移動

14:30 若草山山頂

15:10 解散

■概要報告

春日山原始林北部遊歩道を歩き若草山を下るフィールドワーク。今回は、学部生、教職大学院生、児童、外部関係者など、多様な参加者となった。教職大学院の参加者からは、教材開発の視点で原始林を見てみたい等の希望もあったため、解説部分に重点を置きながらのフィールドワークとした。

初夏の春日山原始林は、照葉樹の新芽などがまだ残っており、曇り空の下であったが気持ちよく歩くことができた。

植生の遷移の話や、樹種の話のほか、木々の葉の手触り、苔の質感なども感じながら歩くとともに、五感で森を感じる体験も行った。「森でねころぶ」は新鮮な体験だったようで、森林を体全体で感じる体験となったようだ。

生き物についても、昆虫やカエルなどに会えて、糞などから、森に住む動物についても解説を行った。また、春日山原始林が抱えている鹿との共生に関する課題についても植生保護柵の変化などから気づいてもらい、答えのない課題についてさまざまな視点から捉えることが重要であると伝えた。

終了後の感想からは、教材研究の観点から有意義であった、受験のために暗記していた知識を実際に目の前で見ることができ有意義だった等の意見があった。

■写真



水谷神社(春日大社との関係)の説明



イチイガシと常緑広葉樹の説明



樹種の違いを感じる



感性のたいそう (みみをすます)



森でねころぶ



ヒメアシナガコガネ



若草山三重目にて集合写真



二重目から奈良公園の景観について解説

